



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年8月8日

上場会社名 株式会社ステムセル研究所 上場取引所 東
コード番号 7096 URL <https://www.stemcell.co.jp/corporate/>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）清水 崇文
問合せ先責任者（役職名）執行役員管理本部長（氏名）谷 勝弘（TEL）03-6811-3235
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2024年3月期第1四半期の業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	577	17.1	88	20.1	90	22.1	75	49.6
2023年3月期第1四半期	492	16.2	73	46.7	74	96.8	50	114.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	7.39	—
2023年3月期第1四半期	4.94	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	5,903	2,392	40.5
2023年3月期	5,811	2,298	39.6

（参考）自己資本 2024年3月期第1四半期 2,392百万円 2023年3月期 2,298百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年3月期の業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,509	20.0	451	51.8	451	50.4	300	51.5	29.28

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期1Q	10,246,600株	2023年3月期	10,246,600株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	46株	2023年3月期	46株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期1Q	10,246,554株	2023年3月期1Q	10,246,568株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

株式会社ステムセル研究所は「あたらしい命に、新しい医療の選択肢を。」をコーポレートスローガンに、再生医療・細胞治療を目的とした「さい帯血」や「さい帯」等の周産期組織由来の細胞バンク事業及び、それらの細胞を利用した新たな治療法、再生医療等製品の開発を行っております。そしてこれらの事業基盤をベースに、再生医療・不妊治療・出産・子育て等の領域での事業開発及び投資等によるサステナブルな社会への貢献を目指しております。

(事業の概況について)

当第1四半期累計期間においては、3年に亘り社会経済活動に多大な影響を与え続けた新型コロナウイルス感染症について、WHOが緊急事態の終了を宣言し日本国内でも5月8日から法律上の位置付けが変更された事により、当社の主要なマーケティングチャネルである医療機関（産科施設）においても、診療体制など正常化に向けた動きが加速致しました。これにより当社の目指す、リアル（産科施設内でのスピーチ等のPR）とデジタル（オンライン広告及びSNS等）のマーケティングの相乗効果が高まっており、今後の業績拡大に大きく寄与する見込みです。

2021年4月より新たに開始した、日本初の「さい帯保管サービス」におきましては、本年6月より保管者向けに、「さい帯」を培養し「上清液」を作成・提供する、これも日本初の「ファミリー培養上清製造サービス」を開始した事で保管ニーズが高まり、計画を上回る保管率となっております。

これらの本格的な業績への寄与は第2四半期以降となりますが、当四半期においても、4～6月連月で過去最高の単月月次売上高を計上、結果、当第1四半期累計期間の売上高も過去最高を更新しております。そして、今後の検体数の増加を見据えて、2021年に稼働させた、従来の3倍の規模に対応できる横浜細胞処理センター及び第二保管センターについても管理オフィスを増設する等運用を強化し、今後の業績の拡大に対する備えを着実に進めております。

また、コロナ禍中一時ストップしていた海外の企業との交流も再開しつつあり、今後アジアを中心とした海外展開にも再度チャレンジして参ります。

そして、本年5月には業容拡大に対応し、さらに業務効率をより向上すべく、本社オフィスを虎ノ門一丁目に移転致しております。

(研究開発活動について)

「さい帯血」を用いた再生医療分野につきましては、国内では高知大学医学部附属病院小児科において脳性麻痺児に対する臨床研究が順調に進んでおります。

大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学教室を中心としたグループでは低酸素性虚血性脳症（HIE）児に対する臨床研究も引き続き進められております。また、同グループとは本年6月に「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」を開始する事を決定し公表致しました。

米国においては、FDA認可のもとデューク大学で進められている脳性麻痺児等へのさい帯血投与プログラムへ、当社でさい帯血を保管されている方々が参加されるケースが引き続き増加しており、その結果も良好です。

「さい帯」を用いた研究開発につきましては、大阪大学大学院医学系研究科スポーツ医学教室と設立した「運動器スポーツバイオメカニクス学講座」において、新たな半月板治療法の開発を推進しております。

また、東京大学医科学研究所セルプロセッシング・輸血部及び東京大学医学部附属病院ティッシュ・エンジニアリング部との小児形態異常等の先天性疾患に対する治療法の開発も、引き続き推進しております。

これらの活動の結果、当第1四半期累計期間における売上高は、過去最高の577,108千円（前年同期比17.1%増）、営業利益は88,605千円（同20.1%増）、経常利益は90,761千円（同22.1%増）、そして、本年6月27日に投資先であるクオリプス株式会社が東証グロース市場へ上場した事に伴う投資有価証券売却益22,327千円を特別利益へ計上した事等から、四半期純利益は75,686千円（同49.6%増）となっております。

なお、当社は、単一セグメントのため、セグメントごとの記載を省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における資産合計は5,903,842千円となり、前事業年度末に比べ92,227千円増加いたしました。流動資産は4,637,185千円となり、前事業年度末に比べ91,722千円増加いたしました。これは主に、法人税等の支払いにより、現金及び預金が43,689千円減少した一方で、売上の増加に伴い売掛金が145,694千円増加したことによるものであります。固定資産は1,266,657千円となり、前事業年度末に比べ504千円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債合計は3,511,577千円となり、前事業年度末に比べ1,449千円減少いたしました。流動負債は3,427,598千円となり、前事業年度末に比べ3,973千円減少いたしました。これは主に、前受金が87,982千円増加した一方で、賞与引当金が22,916千円、未払法人税等が36,642千円、未払金が30,909千円、未払消費税等が12,604千円減少したことによるものであります。固定負債は83,978千円となり、前事業年度末に比べ2,524千円増加いたしました。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における資産合計は2,392,265千円となり、前事業年度末に比べ93,676千円増加いたしました。これは、四半期純利益の計上により利益剰余金が75,686千円増加したこと及び投資有価証券の時価評価により、その他有価証券評価差額金が17,990千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期通期の業績予想につきましては、2023年5月11日「2023年3月期決算短信」にて公表しております通期業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,324,021	3,280,332
売掛金	1,140,826	1,286,521
原材料及び貯蔵品	39,352	32,810
前払費用	43,587	37,775
その他	1,514	3,150
貸倒引当金	△3,839	△3,404
流動資産合計	4,545,462	4,637,185
固定資産		
有形固定資産	648,055	686,081
無形固定資産	24,532	23,622
投資その他の資産	593,565	556,953
固定資産合計	1,266,152	1,266,657
資産合計	5,811,615	5,903,842
負債の部		
流動負債		
買掛金	30,186	25,591
未払法人税等	62,446	25,804
前受金	3,095,007	3,182,990
賞与引当金	48,658	25,742
その他	195,272	167,470
流動負債合計	3,431,572	3,427,598
固定負債		
役員退職慰労引当金	21,013	23,822
資産除去債務	55,886	55,934
その他	4,555	4,221
固定負債合計	81,454	83,978
負債合計	3,513,026	3,511,577
純資産の部		
株主資本		
資本金	704,805	704,805
資本剰余金	589,805	589,805
利益剰余金	1,007,405	1,083,091
自己株式	△91	△91
株主資本合計	2,301,924	2,377,610
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,336	14,654
評価・換算差額等合計	△3,336	14,654
純資産合計	2,298,588	2,392,265
負債純資産合計	5,811,615	5,903,842

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	492,837	577,108
売上原価	180,391	205,083
売上総利益	312,446	372,025
販売費及び一般管理費	238,643	283,419
営業利益	73,802	88,605
営業外収益		
受取利息	364	362
助成金収入	156	334
協賛金収入	—	1,342
雑収入	—	116
営業外収益合計	520	2,155
営業外費用		
支払手数料	0	—
営業外費用合計	0	—
経常利益	74,322	90,761
特別利益		
投資有価証券売却益	—	22,327
その他	—	1,746
特別利益合計	—	24,074
特別損失		
固定資産除却損	—	8
特別損失合計	—	8
税引前四半期純利益	74,322	114,826
法人税、住民税及び事業税	14,718	22,461
法人税等調整額	8,998	16,678
法人税等合計	23,717	39,140
四半期純利益	50,605	75,686

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。